

参加無料

どなたでも参加可

定員150名

未来へつなぐ世界遺産 厳島神社と石見銀山

日時

令和9年2月14日(日)
13:00~16:00

場所

県立広島大学
広島キャンパス大講義室
(2棟1階)

2026年には「厳島神社」が世界遺産登録30周年、2027年には「石見銀山遺跡とその文化的景観」が20周年を迎えることを記念して、シンポジウムを開催します。講演1では、戦国大名毛利氏による石見銀山支配と厳島信仰の繋がりについて考えます。講演2では、石見銀山で採掘された銀を財源として行われた厳島神社の元亀2年(1571)遷宮について具体的に考えます。また、会場では「元亀2年12月26日付 吉川元春書状」ほか宮島学センター所蔵資料数点を特別公開します。ぜひご来場ください。

プログラム

開会あいさつ

県立広島大学 学長 森永 力

13:10~14:10

講演
①

「戦国期における厳島神社と石見銀山」

県立広島大学名誉教授 秋山 伸隆

14:20~15:20

講演
②

「戦国期における厳島神社の遷宮」

宮島学センター特命講師 大知 徳子

15:20~15:50

「世界遺産」パンフレット開発

宮島学センター長 植村 広美

広島大学附属小学校教諭 野元 祥太郎さん

閉会あいさつ

地域基盤研究機構長 荻田 信二郎



ホンディウス/オリテリウス「日本図」(宮島学センター蔵)

※会場には駐車スペースがございませんので、公共交通機関でお越しください。

お申込はこちら



申込期限

2月3日(水) 17時

お問い合わせ

所在地: 〒734-8558
広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号
メール: kouza@pu-hiroshima.ac.jp
電話: 082-251-9534 (平日9時~17時)

主催

広島県公立大学法人
県立広島大学
地域基盤研究機構
宮島学センター